

Once upon a time in Utsunomiya

一枚の絵葉書から 石井敏夫コレクションより

第77回

ありし日の軍道と花見客

満開の桜並木と花見客。道路向側には
露店が軒を運ぶ



《宇都宮市中央下》

桜通り十文字交差点の北に架かる陸橋の陰に、忘れかけられた一基の碑が建っている。御影石に刻まれた横川信夫知事揮毫による「桜並木ここにありき」の碑である。その脇には、「桜通り由緒の記」として次の文章が刻まれていた。長文であるが、その全容が分かるので記したい。「宇都宮第十四師団は明治四十一年三月歩兵第六十六聯隊 同十月歩兵二十八旅団司令部 騎兵第十八聯隊 野砲兵第二十聯隊 輜重兵第十四

大隊 衛戍病院等が成り 翌四十二年五月歩兵第五十九聯隊が設けられ完成した 大正八年シベリア出兵 昭和二年満州守備隊で同十六年以降大東亜戦争出陣 常に豪勇部隊として戦史を飾ったが 終に戦後廃止された この桜通りは師団設置後初めて設けられて軍道と呼ばれたが 両側に五百有余本の吉野桜が植えられたため やがて桜通りの名を生み じらい五十有余年 軍都の誇りをたたえながら花の名所とうたわれたが 昭和三十八年伐採の止むなきに至った かくて在りし日の軍道のひびき軍馬のいななきは花の姿と共に遠く去って武夫(ものゝふ)たちの思出多い夢の跡のみとなった 感慨まさに無量である 昭和三十九年十月一日 小林友雄撰 葎田真齋書」

由緒にも刻まれているように、軍道は師団司令部と各軍事施設を結ぶことを目的に建設されたものだが、桜の季節になれば県下有数の「花の名所」として多くの花見客で賑わった。一九三二(昭和



交通整理をする警官。信号に「GO 進」とある

七)年発行の「宇都宮読本 前編」(宇都宮市小学校連合研究会)には「軍道の櫻」という項目が設けられ、「大谷街道との交差点で非常な雑踏を極めている。ベルが鳴る、止まれ進めの合図に、交通整理に忙しい警官は、殆ど休みなく活動を続けている」「囃鳴物を入れた仮装行列にあり。そのあとから団体の見物人が首に手ぬぐいを結び、ききなれない言葉を交わしながらすぎて行く」などと記され、その喧噪ぶりがうかがえる。また、夜ともなれば雪洞がとまり、道路両側にはサーカス小屋やよしず掛けの料理屋座敷、お化け屋敷が軒を連ね、花見客は数千人にのぼったという。